



父からの贈り物

の心配をし、母の今後の生活を憂いながら、父は旅立っていきました。

日本人の2人に1人ががんになるといわれる時代です。がんで苦しむ方々とそのご家族が、希望に溢れた毎日を送ることができると世の中が一日でも早く訪れることを願ってやみません。

父を失った悲しみが消えることはありません。でも、父



吉井町
中川あゆみさん

から本当に大切に育ててもらったという記憶や、父からもらったたくさんの愛情が、いつも私の背中を押し

てくれます。

「頑張れ。前を向いてしっかり歩いてゆけ」

そんな声がいつも聞こえるようです。私も父に恥じないよう、しっかりと生きていきたいと思う今日この頃です。

次は、十八女町の和田あづささんをお願いします。

悩ぶりを発揮し、子どもをあやしたり、寝かしつけたり。本当にいろいろ助けてもらいました。そんな父の突然のがん宣告に私たち家族は戸惑い、先の見えない不安に押しつぶされそうになりながら毎日を過ごしました。でも一番不安だったのは紛れもなく父だったはず。それなのに、「迷惑をかけてすまない」と家族

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

佳作

長尾 久子

街道の家並に雛は飾られて生あるごとく瞳輝く

佳作

佐坂 恵子

老われの梅の細枝を弾ませつつ飛び交ふ目白孫のごとしも

佳作

森 歌子

若草の萌え立つ路に蒲公英が背伸びして見る春の気配を

佳作

山本 賀代

「嫌やなあ」「行きたくないな」と夫が言う五泊六日の検査入院

佳作

五島 秀子

ゴミの日に和傘一本道の辺に回想無限にひろがりてゆく

佳作

近藤 芙美

国敗れ平和希いて七十年孫らに語る烈し想いを

佳作

佐々木夫美

ありありと甦りくる記憶あり竹槍持ちて乗る列車

俳句

阿南市俳句連合会選

河内 順子

百歳と曾孫並ぶ敬老日

墨磨りて心静かに夜長かな

町田 哲子

秋天やフォークダンスの伸び縮み

神野 春月

栗ご飯四恩の恵みもらいけり

久田 美恵

纏れつつ野花に戯る秋の蝶

湯村 陽子

夕星に太鼓のひびく秋祭

喜来富士子

コスモスの揺れて野仏見え隠れ

中川よし子

鉄塔の乱立の岬鷹渡る

宮崎三千代

秋日傘畳んでをれぬ日射しかな

近藤 まい

里山の傾斜に沿うて葡萄棚

宮繁ただし

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

柚子風呂に入り健康願ってる

佐野 智子

わたくしが渡り切ったら落ちる橋

原 公美子

命にもおしやれサプリのあれやこれ

野村 敏子

目隠しへ一石二鳥布団干す

持木 寿栄

食欲にいつも負けてるダイエット

酒本 耕造